

2026年度事業計画

1 研究交流・人材育成事業

「知の交流拠点」機能を発揮し、産・学・官の研究交流を通じて、ライフサイエンスの発展を担う創造性豊かな研究人材の育成を図る。

(1) 千里ライフサイエンスセミナー

我が国を代表する第一線の研究者（各回6名程度）が先端的研究成果・動向等を発表・紹介し、研究交流と人材育成を図る。

対象者：大学・企業等の研究者等

回数：年5回

場所：千里ライフサイエンスセンタービル (Hybrid)

内容：講演及び名刺交換会

回	テーマ名	コーディネーター	実施時期
①	セミナーY1 腸内細菌と疾患	谷内田 真一（大阪大学大学院医学系研究科） 大野 博司（理化学研究所）	2026年 5月13日 (水)
②	セミナーY2 脳の可能性を開拓する Brain-Machine Interaction	西村 幸男（東京都医学総合研究所） 堀川 友慈（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）	2026年 7月1日 (水)
③	セミナーY3 第11回 免疫・感染症シリーズ DNA ウイルスと疾患	幸谷 愛（大阪大学 微生物病研究所） 川名 敬（日本大学医学部）	2026年 9月10日 (木)
④	セミナーY4 再生医療の最前線（仮）	岡野 栄之（慶應義塾大学再生医療リサーチセンター） 武部 貴則（大阪大学大学院医学系研究科／東京科学大学／横浜市立大学先端医科学研究センター）	2026年 11月26日 (木)
⑤	セミナーY5 精神・神経疾患のバイオマーカー研究（仮）	望月 秀樹（大阪刀根山医療センター） 樋口 真人（量子医科学研究所／大阪公立大学大学院医学研究科）	2027年 1月予定

(2) 新適塾

各分野の第一線の研究者の講演と、若手が講師等と自由闊達に議論できる場を通じ、今後のライフサイエンスの発展を担う人材を育成する。

テーマ：「未来創薬への誘い」「脳はおもしろい」「難病への挑戦」
 対象者：大学・企業等の若手研究者等
 回数：各テーマ4回、年12回
 場所：千里ライフサイエンスセンタービル (Hybrid)
 内容：講演及び懇談会

	テーマ名	コーディネーター	実施時期
①	未来創薬への誘い	水口 裕之 (大阪大学大学院薬学研究科) 小比賀 聡 (大阪大学大学院薬学研究科)	3カ月に1回実施 計年間4回
②	脳はおもしろい	山本 亘彦 (大阪大学名誉教授) 古川 貴久 (大阪大学蛋白質研究所)	同上
③	難病への挑戦	菊池 章 (大阪大学感染症総合教育研究拠点) 河原 行郎 (大阪大学大学院医学系研究科)	同上

(3) AKIRA 塾

基礎から創薬した研究者や超一流研究者に、研究内容、研究を始めた経緯から苦労話、失敗談を含めた歴史を講演いただき、その後の理事長との対談や参加者とディスカッションを通じて、一つの成功プロセスモデルを提供することにより、今後を担う若手研究者の育成に資する。

対象者：大学生、大学院生、企業・研究機関若手研究者
 形式：リアル (会場) 開催
 回数：年2回 (7月、2月頃)
 内容：講演及び懇談会

(4) 大阪科学賞

創造的科学技術の振興を図り、21世紀の新たな発展と明日の人類社会に貢献するため、極めて有望な若手研究人材を「大阪科学賞」として顕彰する。(大阪科学賞は昭和58年創設。大阪府、大阪市、(一財)大阪科学技術センター主催。当財団は平成20年から共催)

2 岸本基金研究助成事業

独創性、先行性があり、ライフサイエンスの振興に寄与することが期待できる若手研究者の研究テーマに対して助成する。

[助成研究テーマ] ・生命現象の解明
 ・健康の維持増進と疾病の予防・治療
 ・生物およびその諸機能の産業への応用

助成額：1件200万円

助成件数：15件程度

3 普及啓発事業

一般市民や児童生徒に、学び、研究者等と交流する機会を提供するとともに、主にライフサイエンスに関する知識・情報や、当財団の役割、各種事業等について普及啓発を行う。

(1) 千里ライフサイエンスフォーラム

一般市民を対象に、幅広く「教養の向上」と「交流」を図ることを目的にライフサイエンスのみならず様々な分野のトピックスを取り上げ、学習と交流の場を提供する。

- ・毎月1回（8月は休会予定）、年11回
- ・場 所：千里ライフサイエンスセンタービル
- ・形 式：講演と講演のオンデマンド配信
- ・内 容：講演及び懇親会（懇親会は4月、10月予定）

(2) 市民公開講座

一般市民を対象に、ライフサイエンスに関する身近なテーマについて公開講座を開催する。

対 象 者：一般市民

回 数：年2回

① 第93回 テーマ…調整中 [2026年9月26日（土）]

② 第94回 テーマ…調整中 [2027年3月13日（土）]

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル（Hybrid）

内 容：講演

(3) 小学生、高校生向け事業

次世代の人材育成も含めて、生命・自然科学に対する知的好奇心、向上心を醸成するため、小学生向け事業、高校生向け事業を実施する。

財団企画委員会担当委員が事業を企画し、コーディネーターとなって実施する。

【小学生向け事業】（学校の授業では取り組みにくい実験等を行う）

- ・対 象：小学6年生
- ・開催日：2026年7月25日（土）予定
- ・場 所：大阪大学豊中キャンパス 理学研究科研究棟
- ・講 師：2課題/2講師を予定

【高校生向け事業】

① 第18回高校生セミナー：研究者と語ろう（大阪大学 IFRc と共催）

- ・開催日：2026年8月初旬の平日
- ・場 所：大阪大学吹田キャンパス
感染症総合教育研究拠点（CiDER 予定）
- ・講 師：2～3 演題/2～3 講師を予定
感染症総合教育研究拠点（CiDER）も見学予定

② 高校へのライフサイエンス等の出前授業

- ・対象校：高槻中学校・高等学校、金蘭千里高等学校、川西緑台高等学校 他
- ・回数：計 3～5 回

(4) 広報誌「千里ライフサイエンス振興財団ニュース」の発行

ライフサイエンスに関する知識・情報、当財団の事業・活動報告、案内等の普及を図る。

[内容] ・理事長と第一線研究者の対談

- ・「リレートーク」
- ・「解体新書」
- ・財団事業の報告・取材記事
- ・財団事業案内等 情報提供

発行回数：年 3 回

部 数：各 1,300 部（財団 HP にも掲載）

配 布 先：大学・研究機関、ライフサイエンス関連企業、行政、セミナー・
フォーラム等財団主催行事参加者等

4 研究実用化支援事業

産・学・官の交流拠点・結節機関として、ライフサイエンス分野における研究とその実用化・事業化を促進・支援する。

(1) 技術講習会

ライフサイエンス分野の最新の実験技術、機器・装置等を研究者の講演と実習を通じて紹介し、若手研究者等に新しい技術習得の機会を提供する。

対 象 者：大学・企業等の研究者等

回 数：1 回（技術講習と実技講習）

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル、大阪公立大学

テーマ名	コーディネーター	実施時期
技術講習会 G75 凍結組織でも可能！－Flex シングルセル・トランスクリ プトーム解析－	大谷直子 大阪公立大学大学院医学 研究科	2026 年 6 月 4 日(木) 5 日(金)

(2) 千里 LF 産学学術交流会

アカデミア（岸本基金研究助成採択者および日本免疫学会「きぼう」プロジェクト採択者）からの単なるシーズ紹介の場ではなく、少し先の未来を見据えて理化学系企業とアカデミアが率直かつ自由に議論、交流できる場を提供する。

対象者：企業の研究者および研究企画担当者

形 式：リアル（会場）開催

時 期：2026年11月～12月

内 訳：研究紹介と懇談会

(3) 日本医療研究開発機構「橋渡し研究プログラム」(大阪大学受託事業)

当該プログラムのシーズA(基礎研究課題)および異分野融合型シーズH(医歯薬系以外の研究者による研究課題)に係る業務を担当し、特に革新的医療技術創出拠点として大阪大学の課題となっている大阪大学以外(拠点外)のシーズ育成強化を実現する。

- ① 研究進捗状況や今後の計画をヒアリングして必要な助言を行うフォローアップ業務
- ② 大阪大学への結果報告と対応協議

(4) 大阪大学医学部附属病院未来医療開発部シーズ支援会議委員(大阪大学受託事業)

大阪大学において開発支援をおこなう高度な医療技術の研究シーズおよびその開発について、評価および支援を実施するために設置された未来医療開発部の「シーズ支援会議」に有識者委員として参画することで、アカデミア発シーズの実用化の実現に協力する。

- ① R&Dサイエンスコミッティーの参加(研究後期段階に相当するシーズの選考、評価、助言)
- ② 早期開発会議の参加(開発初期段階に相当するシーズの選考、評価、助言)

(5) 大阪府との連携による産学官交流事業

① 大阪バイオヘッドクォーター

大阪の健康・医療関連産業のさらなる発展を図るため、大阪府内の産学官が一丸となった体制である大阪バイオヘッドクォーターの各種取り組みに協力する。

② 医療・健康 おおさか産学官連携フォーラム

産学官の連携をより強固にするとともに医薬品産業の活性化に寄与することをめざし、医薬基盤・健康・栄養研究所などにおける研究成果や大阪北部(彩都)地域を中心とした産学官連携の取り組みを対外的に広く発表するイベントを開催する。